

# 成績評価ガイドライン

令和4年6月8日

植草学園大学・植草学園短期大学 教学改革推進センター

## 1. ガイドラインの趣旨

本ガイドラインは、植草学園大学・植草学園短期大学が教育課程の特性に応じて成績評価を行う上での留意事項を提示するものです。これによって、各授業科目の教育水準を確保するとともに、客観的な成績評価を図り、もって本学の教育の質と信頼性の向上に寄与することを目的とします。

## 2. 成績評価の基本事項

### (1) 成績評価の目的

成績評価とは、授業の学修成果を明らかにし、学生が自分自身を客観的に省みるよう促したり、学生の学修成果の質を保証したりすることです。

#### 「授業の学修成果の明確化」

成績評価は、授業の到達目標の達成度を判定するものです。授業で取り扱っていない事柄を評価することは、成績評価の公正性を損ねます。

#### 「学生の客観的な省察」

成績評価では、教員の責任において、学生の学修成果を適切に評価してください。これによって、学生は自らの学修成果を省みるための立脚点を、自分の外に持つことができます。

#### 「学修成果の質の保証」

成績評価の結果は、学生の学修成果が一定の水準を超えていること（あるいは超えていないこと）を担保するものでなければなりません。大学が社会に対してアカウンタビリティを果たすためにも、適切な成績評価は重要です。

### (2) 出席についての規定

本学では、講義・演習科目の場合、出席が全体の授業回数の3分の2に満たない者、実技・実習科目の場合は5分の4に満たない者は、成績評価の対象になりません。授業では毎回出席を確認するようにしてください。

### (3) 5段階による絶対評価

成績評価は、授業の到達目標の達成度を判定するものです。到達度は、秀・優・良・可・不可の5段階で判定してください。5段階の尺度は、以下のような尺度構成となっています。

評価	評点	成績評価基準
秀	：(100点～90点)	到達目標を達成し、特に優れた成績を修めている
優	：(89点～80点)	到達目標を達成し、優れた成績を修めている
良	：(79点～70点)	到達目標を達成し、概ね良好な成績を修めている
可	：(69点～60点)	到達目標を最低限達成している成績である
不可	：(59点～0点)	到達目標に達していない成績である

なお授業には大学教育としてふさわしい学術性や実践性が求められるため、到達目標にも相応のレベルが求められます。授業を受けた学生が「秀」や「不可」に偏るような場合、当該授業のレベルまたは授業方法が妥当ではない可能性があります。その場合には授業のレベルまたは授業方法の見直しを行ってください。

### (4) 成績判定資料の開示・保管・学生からの申し立て

成績評価のプロセスで作成する、テストやレポート、プレゼンテーションの採点結果については学生の学びを深化させるために、適宜、学生に開示し、解説やまとめ、模範解答等を提示してください。

「成績疑義申立」について検討するための根拠資料ともなるため、成績判定資料は必ず適切に保管するようにしてください。

## 3. 成績評価の方法について

### (1) 評価の正当性

成績評価は教員の好みや思いで決められるものではありません。誰しものが納得するような、正当性のある評価を目指していかなければなりません。

成績評価の正当化のためには、①学生が納得できる評価基準を定めること(基準の公共性)、②評価基準に基づいて、偏りが生じない公平な方法で学生の実態を測定すること(測定の信頼性)が重要です。この2つの条件をクリアすることで、学生をはじめとした様々な立場の者が納得できるような成績評価が実現します。

もちろん完璧に正当な評価を実現することは極めて難しいことです。しかし、大学教員には、正当な評価の実現を目指す責務があります。このような観点から、正当な成績評価に向けたポイントを示します。

## (2) 評価基準の設定

### ①到達目標＝評価基準の根拠の明示

先述した通り、成績評価は、授業の到達目標の達成度を判定するものです。そのため公正な評価基準を設定するためには公正な到達目標を定めなければなりません。そしてそのためには、到達目標の根拠を明示することが重要です。

例えば「この授業の到達目標は・・・である」とシラバスやガイダンスで一方向的に周知するだけでは、学生はその到達目標の意義を判断できません。一方で「この授業の到達目標は・・・である。この到達目標は・・・学の入門的な水準として設定されており、高年次の・・・という授業と関連している。最終的には・・・という学術領域を学ぶために必要な力が身につく」等、大学の教育課程全体の中で、到達目標がどのような位置付けにあるのか説明を受ければ、学生自身が到達目標の意義をしっかりと理解できます。

到達目標についてしっかりと説明することが、公正な成績評価の第一歩です。このことは成績評価の細かい技術的な問題に腐心するよりも重要なことです。

### ②到達目標・評価基準の具体化-ルーブリックの作成-

到達目標・評価基準をわかりやすくまとめたものはルーブリックと呼ばれます。ルーブリックは表です。縦軸に、到達目標・評価基準が配置されています。横軸は目標・基準ごとの尺度に分けられています。そしてそれぞれのコラムの中に、「この基準のこの尺度は、・・・である」というふうに具体像が書き込まれています。これを見れば、この授業で達成すべき到達点はどのようなものなのか、明確に知ることができます。

どのような観点から成績を評価するのか、見通しがはっきりするため、学生のみならず、教員自身にとっても有効です。

## (3) 様々な測定方法

学修成果を明らかにする方法として以下のようなものがあります。

### ① 短答式テスト・論述式テスト

短答式テストは問と答が一对一で対応しているテストです。論述式テストは、問に対する答を学生自身の言葉で提示するよう求めるテストです。

授業の目標や内容、方法に合わせて短答式テストと論述式テストを使い分けましょう。知識の記憶を測定するときには短答式テストを、知識の理解や応用を測定するときには論述式テストを採用します。

テストとしての信頼性は、概して、短答式テストの方が論述式テストよりも高くなります。論述で用いるキーワードを指定したり、回答の論理性をチェックするためのチェックリストを作成するなど、論述式テストの採点には工夫が必要です。ルーブリックを活用することで

も、信頼性を向上させることができます。

## ② レポート・プレゼンテーション

レポートは、学生に特定のテーマについての知見を文書の形で取りまとめ、報告させることで、学生に知識の応用や創造を求めるものです。プレゼンテーションもまた特定のテーマについての知見を取りまとめるように求めるものですが、報告の形式が口頭発表となります。

レポートやプレゼンテーションの正解は多様であり得るため、採点結果にはばらつきが生じます。信頼性を高めるためには、ルーブリックを作成し、報告の内容や方法さらには報告の形式などについて、どのような基準でどのように評価するのか明示することが推奨されます。

## ③ ポートフォリオ

ポートフォリオは「作品集」の意味です。大学教育の文脈では、学修の過程で作成したノートやレジュメ、実習記録、テスト結果、学修の成果物として作成したプレゼンテーション資料、作品の記録がポートフォリオです。これを電子化したものについては、eポートフォリオと呼ばれます。

ポートフォリオはあくまで記録の集積なので、それだけでは成績評価には使えません。一般的にはルーブリックと組み合わせることで、成績評価に活用します。ポートフォリオにまとめられた長期にわたる活動記録の集積から様々な学修成果を読み解くために、ルーブリックが重要な手がかりとなります。

**【参考】**本ガイドラインおよび次のフローチャートは、弘前大学教育推進機構作成の「成績評価ガイドライン」を参考にしました。

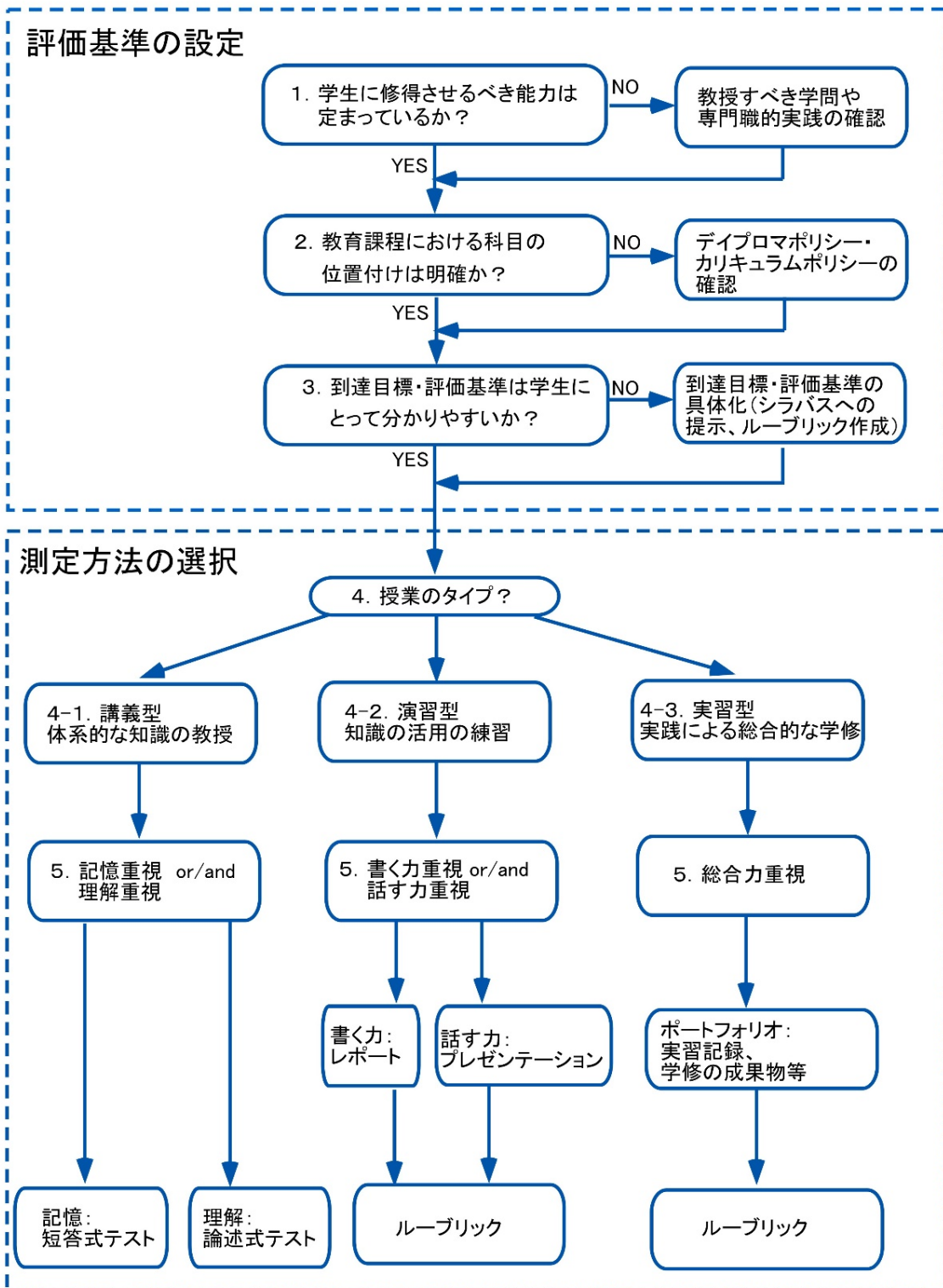


図. 成績評価のためのフローチャート